

新芽開眼守護符について

この新芽開眼守護符は、永い眠りから覚めた究極のお守りです。

幾多の戦乱により途絶えてしまった元神明宮古来から伝統のお守りを、この度「御鎮座壹千年」を記念して奉製いたしました。

元神明宮は、平安時代（西暦一〇〇五）の創建以来「神明様」と呼ばれ、多くの方々に親しまれてきました。

「神明（シンメイ）」の呼び方が「新芽良い（シンメイヨイ）」に通じることから、このお守りが生まれたと言われている。

まず元神明宮の袋から、お守りとお清めの砂を取り出していただきます。元神明宮の袋には身に着ける方ご自身のお名前を書いて下さい。授与された日より、お清めの砂を元神明宮の袋に直接入れ（その際に水を数滴含ませて下さい）その中に新芽のお守りを納めて下さい。

お祀りいただく場所は神棚が最適ですが、ない場合はそれに準じた目線より上の清潔な場所が良いでしょう。出来れば南または東に向けて下さい。

春を迎える立春の前日（節分）までの間、お清めと成長を毎日お祈りいたしましょう。

授与された日より節分までの毎日お祈りすることが望ましいのですが、旅行や出張等で身近にお守りがない場合でも、家の方角に向かいお守りをイメージしてお祈りして下さい。

お祈りの仕方は、二拝（二度おじぎをします）二拍手（一度胸元で手を合わせてから二度拍手します。二度目の拍手後、手をそのまま合わせて願いを込めます）一拝（最後にもう一度おじぎをします）。

*神社に参拝した時もこの作法でお参りして下さい。

お祈りする時間は、昼間のお仕事の方は朝起きてお仕事に出掛けられる前に、夜勤等の方は朝ではなくてもその日一日のスタートとなる時間で構いません。

いよいよ立春の日（節分の翌日）より身に着けてお持ちいただくのですが、日の出から午前中の方に朝日の昇る東の方角を向いて、お財布や手帳など常に身に着けている物に大切にしまいましょう。その日から幸運の目がどんどん伸びていきます。袋のお清めの砂は、玄関等にまいてお清めにお使い下さい。

*元神明宮ではこのお守りを一年で元旦から節分の期間のみ頒布しております。

このお守りの御神徳は主に新規開店、新縁成就、心願（新眼）成就などで、これから何か新しい事業をする方や事業（仕事や人脈）の拡大、今後人生をどのような方向で進めて行けば良いか悩んでいる方などに最適なお守りです。

また、お守りでは新しい試みとして、目の不自由な方にもお持ちいただけるように、表面に点字で「新芽開眼守護符」と入れてあります。

このお守りをお炊き上げしても有害なダイオキシンは発生しません。

一年間経ちましたら（節分以降）そのまま神社にお納め下さい。